

男女6人が密室で乱交 大地震でエレベーターが急停止 取り残された6人が危機的状況の中とにかくエッチしま くる話

7の数字が付いたプラスチックの丸い枠（わく）が橙色（だいだいいろ）に点滅した。ゆっくりと分厚い白のドアが開き、乗っていた人が出てくる。

カナエはふと7階の廊下の一番端にある窓に目をやった。

青々とした夏直前の空が広がっている。

そして振り返り、エレベーター内へ。

特段これといった感情もない。次の仕事に向かう途中である。

自分と一緒に数人ぞろぞろと乗ってきたが、そんなことはいちいち気にしていない。一旦、仕事関係の用事が終わったところだった。エレベーターはゆっくりと静かな音を立てて一階へ降りていく。

すると、突如大きな音がしてエレベーターが急停止した。

エレベーター付属設備の放送用スピーカーから館内放送が流れる。

「大地震発生」

それなりに大きいビルのエレベーター。揺れなどは極力起こらないよう耐震設計はしてあるのだが、それでもカナエは大きな揺れを感じた。

スマートフォンをすぐに取り出してニュースを見てみると、前代未聞の大地震のようであった。エレベーターは全く動く様子がない。

3階のところが点滅したまま動かない。

隣にいたユウカという女性が声を震わせた。

「私このあとすごく大切な用事があるのに！！！」

見渡してみると、エレベーターに乗っているのは計6人。男3人女3人である。

皆、26歳の自分と同年代に見えた。

ユウカは焦燥した様子で頭を抱えている。

・・・・・・・・・・。

「大切な用事ですか！？」

隣にいたタツヤという男性がその声の大きさに思わず尋ねる。

「はいっ！！仕事の今後を決めるすごく大切な用事なんです！！」

焦りが全身から伝わってくる。

皆、人生の流れの中で必死な時間。それが急にストップしてしまった。

しかし、状況はそれどころではなかった。

スマートフォンのニュースによると、街は崩壊寸前。救急隊はがれきの中の人命救助で精いっぱいな状況。

その事実をまさに告げる2回目の放送がしばらくして流れた。

「救助に向かいたいが、その時間がない……と」

ビルの外はどれほどの大惨事になっているのか。並の災害であればほどなく救助は来るはずなのに……。

スマートフォンのニュースアプリの画像に、悲惨な光景が移った。

まさに言葉通り前代未聞だった。

こうして、若い男女6人が狭い空間でおそらく長くなるであろう時間取り残されることとなった。密閉されたこの狭い空間で。

どうしようもない状況に陥った6人はしばらく話し合った。数時間が経過していた。助けは当分来ない現実には。

「……………だとすれば、やっぱり待つしかないのかなあ？」

「……………だよな」

数日も助けが来ないとすれば食料は？飲料は？様々な不安を話し合った。

「確か持ってなかったと思うけど……………」

————— 体験版は以上になります。—————